

---

# マイペースな祭ちゃん（リメイク版）

N a n   k a k u   r o i   k e m   o n o

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マイペースな祭ちゃん（リメイク版）

### 【Nコード】

N2591P

### 【作者名】

N a n k a k u r o i k e m o n o

### 【あらすじ】

麻帆良在住の南神納 みなみかのう まつり 祭ちゃん。

ほわほわしていてマイペースな彼女が学園の人達と共に送りする、何とも言えない不思議なお話です。

ぶろろぐ 出発進行 祭ちゃん♪（前書き）

シリアスな展開や、血湧き肉躍るバトルシーンはありません。  
主人公の少女と色々な人物との日常を描いた作品です。

この小説は以前書いていた物のリメイクバージョンです。  
以前の物とは設定が異なる点がありますので、ご了承ください。

ぶろろぐ 出発進行 祭ちゃん」

はる はる うらら 春うらら

ほこほこ ほかほか そらの下

ひとりの 少女の お話が

ほんわり ほわりと 始まります

「父様、母様、行つて来ますね」

「知らない人にあまり付いていつてはいけないよ」

「車に気をつけるのよ」

これから独り立ちするといふのに何処までもほわほわした口調の  
少女・南神納 祭 （みなみかのう まつり）は実家を出て、

これから勤める事になる・麻帆良学園へと向かっていきます。

春の日差しのようなぼわした笑顔、  
ふわふわしたシヨートヘアに小さくて愛らしい顔立ち。

淡い桜色を基調とした洋服を身につけ、  
可愛いらしい鞆を持って小柄な少女は出かけます。

・・・もつとも、既に成人はしているのですが。

「麻帆良学園か」。美味しいお店が沢山あると良いな♪」

嬉しそうにそう呟くと、新天地へと向けて歩き出しました。

## 主人公の紹介です

南神納 祭（みなみかのう まつり） 性別 女

身長 小さめ 体重 軽いです

体型 ふわふわほんわり

性格 おっとりほわほわマイペース

本作の女主人公。麻帆良学園にやって来た。魔法や気を使わない代わりに、N Y A（何だかよく分かんオーラ）を駆使して戦います。主にサポート＆攪乱担当です。

体が小さく、子供扱いされるのを結構気にしています。色々と大きくなろうと毎日頑張っているのですが、なかなか報われません。

自分の半径50m以内に対し不思議空間を展開してしまうN Y Aで

すが、

これは祭ちゃんのエネルギーを割と消費するため、彼女はよくお腹を空かせ

ガス欠をおこしてします。（その度に誰かが回収し、食堂に直行です）

外見は「そーなのかー」が口癖の少女を高校生ぐらいに成長させた姿を

イメージして頂ければぴったります。きっと。

むっつり ほわほわ こゝひゝたいむ (出演：フェイト君)

今回のお話は、フェイト君と祭ちゃんのお話です。

フェイト君の性格が違つと感じるかもしれませんが、  
原作とは異なる平行世界における、出来事と思つて下さい。

「やつぽ。遊びに来たよ」

「いらつしゃい。・・・クッキーが焼けたから  
一緒に食べようか」

「わい」

秋すぎて 冬がするりと やつて来た

そんなある日の お話です

とある とある一室で こんな会話が ありました

ある 午後の カフェタイム

よく コーヒーを飲む 少年を見て

少女は ふと 尋ねたのです

「フエイト君？」

「・・・何？」

「どうしてブラックでコーヒーが飲めるの？」

「・・・好きだから？」

「すごいよね。私はミルクと砂糖が無いと飲めないよ」  
（＜―＞）  
「香りは好きなんだけどな」

「・・・香りは好きなんだね？」

「そうだよっ」

「・・・（苦くなければ良いのかな？）」

彼と彼女の カフェタイム

出会い つながり いまへと いたるまで

かたや ブラック かたや カフェオレ

飲み方が まったく 異なりました

彼は 香りと 風味を楽しみ

彼女は ミルクと 砂糖との調和を

それぞれ 楽しんでいたので

そして たがいに ねがっていました

「この（ブラックの）良さを」

「この（カフェオレ）良さを」

「「知って欲しい」と

ひそかに いただいていたのです

しかし 彼女は 苦いものが

彼も 甘すぎるものが 苦手です

そこで 今回の カフェタイムは

彼女は 彼に カフェオレを

彼は 彼女に ブラックを

互いの 好みを 考えて

淹れる事に なりました

「えへへっ♪フェイト君専用の  
カフェオレが完成したよっ♪」

「・・・これなら君でも大丈夫なはず」

ほわほわした 女の子は 甘さ控えめのカフェオレを

寡黙な少年は あっさりとした コーヒーを

差し出しあつて 飲みました

「ほわっ 良い匂いだっ。・・・（こくっ）」

「・・・いただきます。（こくり）」

「わあっ。何だかとても飲みやすいよっ♪」

「・・・あ、美味しい」

それぞれの 好みを考え 淹れあつた

今回の カフェタイムは

少年少女の　ねがいであつた

ブラックと　カフェオレの　おいしさを

伝え合う　ことが　出来ました。

「フェイト君、また今度・・・今日と同じコーヒーを  
淹れてくれる？」

「君さえ良ければ何度でも・・・僕にもまたカフェオレを  
作ってくれるかい？」

「もちろんだよ。今度はもっと美味しく作るね」

「・・・有り難う。（ずっと、この笑顔を見ていたいな）」

ほのぼのとした　ひとときを　ふたりで過ごす　カフェタイム

ほんのり　ほわほわ　ふわふわと

暖かな風が　流れ流れて　いるのですた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2591p/>

---

マイペースな祭ちゃん（リメイク版）

2010年12月2日12時20分発行